
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 平成22年3月期第2四半期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成22年3月期第2四半期決算概要
- III. 今後の展開、平成22年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 15 年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。

現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2009 年 4 月

i-phone 向けタッチパネル関連製品の一部量産開始。

Ⅱ.平成 22 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要

◎ 損益計算書の概要 (連結)

(単位：百万円)

	08/9 第2四半期(累計)		09/9 第2四半期(累計)		10/3 期《予想》	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	5,508	100.0	4,343	100.0	10,120	100.0
AV 機器関連	(1,451)	(26.3)	(1,081)	(24.9)	(2,500)	(24.7)
OA 機器関連	(1,789)	(32.5)	(1,685)	(38.8)	(4,100)	(40.5)
その他電気機器関連	(1,240)	(22.5)	(932)	(21.5)	(2,000)	(19.8)
輸送用機器関連	(503)	(9.1)	(260)	(6.0)	(700)	(6.9)
その他	(524)	(9.6)	(383)	(8.8)	(820)	(8.1)
売上総利益	1,020	18.5	688	15.9	1,850	18.3
営業利益又は営業損失(△)	27	0.5	△200	△4.6	44	0.4
経常利益又は経常損失(△)	64	1.2	△178	△4.1	59	0.6
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△21	△0.4	△165	△3.8	20	0.2

2009 年 9 月第 2 四半期の業績に関しましては、前年同期比減収となり、利益面では赤字の結果となりました。

- 売上高に関しましては、電気、自動車メーカーの生産調整が続くなかで、香港、中国を中心とするアジア向けの売上が前期比大幅に落ち込み、国内においても、AV 機器関連業種および輸送用機器関連の売上が大幅に減少いたしました。これらの結果売上高は 4,343 百万円(前年同期比 78.8%)と大幅に減少いたしました。

- ・AV 機器関連は、主にデジタルカメラ・ビデオ向け製品等の受注額の減少により売上高 1,081 百万円、前年同期比 25.5%減少。
- ・OA 機器関連は、タッチパネル関連受注が大幅に増加したものの、その他の受注額が減少し、売上高 1,685 百万円、前年同期比 5.8%減少。
- ・その他電気機器関連は、電子部品向けの受注額が減少し売上高 932 百万円、前年同期比 24.9%減少。
- ・輸送用機器関連は、自動車メーカーの生産調整による受注額の減少により 260 百万円、前年同期比 48.1%減少。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連を中心に受注額が減少し、売上高 383 百万円、前年同期比 26.9%減少。

- 売上総利益率は、受注量減少による工場の操業度低下及びコスト・ダウン要請により前年同期比 2.6 ポイント悪化いたしました。
- 営業損失は、販売費及び一般管理費の削減を行いましたが、売上高の大幅な減少により、200 百万円（前期は 27 百万円の営業利益）となりました。
- 営業外では為替差損 12 百万円の計上はありましたが、受取利息、配当金等 42 百万円により、経常損失は 178 百万円（同 64 百万円の経常利益）となりました。
- 特別損失及び税金費用については、四半期純損失は 165 百万円（同 21 百万円の四半期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	08/9 第 2 四半期末	09/9 第 2 四半期末	09/3 期末
流動資産	(8,390)	(7,306)	(6,777)
現金及び預金	3,707	2,964	2,986
売上債権	3,406	3,089	2,763
棚卸資産	877	1,060	751
その他流動資産	399	193	277
固定資産	(6,273)	(4,893)	(5,194)
資産合計	(14,664)	(12,199)	(11,971)
流動負債	(2,657)	(2,409)	(2,022)
買入債務	2,028	1,972	1,581
その他流動負債	629	437	441
固定負債	(354)	(313)	(363)
退職給付引当金	178	181	183
その他固定負債	176	132	180
負債合計	(3,012)	(2,722)	(2,385)
株主資本	(11,453)	(9,575)	(9,785)
評価・換算差額等	(△99)	(△337)	(△436)
少数株主持分	(297)	(239)	(237)
純資産合計	(11,651)	(9,477)	(9,586)
負債・純資産合計	(14,664)	(12,199)	(11,971)

2009年9月第2四半期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当第2四半期末における流動資産の残高は7,306百万円（前期末6,777百万円）となり、529百万円増加いたしました。これは、主に受取手形及び売掛金等の売上債権が326百万円増加したこと及び、下期に向けての受注増加により棚卸資産が309百万円増加したことによるものであります。
- 当第2四半期末における固定資産の残高は4,893百万円（前期末5,194百万円）となり、301百万円減少いたしました。これは主に長期定期預金300百万円の解約によるものであります。
- 当第2四半期末における負債の残高は2,722百万円（前期末2,385百万円）となり、337百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金等の買入債務391百万円の増加によるものであります。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が40%と高いことが原因であります。
- 当第2四半期末における純資産の合計は9,477百万円（前期末9,586百万円）となり、109百万円減少いたしました。これは、主に四半期純損失の計上及び配当金の支払により利益剰余金が209百万円減少したほか、為替換算調整勘定等評価差額金のマイナスが98百万円縮小したことによるものであります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	08/9 第 2 四半期 （累計）	09/9 第 2 四半期 （累計）	09/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	572	△199	436
投資活動によるキャッシュ・フロー	△0	326	280
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96	△44	△1,071
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	△6	12
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	461	75	△341
現金及び現金同等物の期首残高	3,165	2,823	3,165
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	3,627	2,899	2,823

当第 2 四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ 75 百万円増加し、当第 2 四半期末には 2,899 百万円となりました。

当第 2 四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は 199 百万円（前年同期比 771 百万円減）となりました。主な増加要因は、当第 2 四半期累計期間の減価償却費 133 百万円、仕入債務の増加額 368 百万円であり、主な減少要因は、売上債権の増加額 286 百万円、棚卸資産の増加額 291 百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は 326 百万円（同 326 百万円増）となりました。主な増加要因は、定期預金の払戻による収入が 400 百万円であり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出 87 百万円によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は 44 百万円（同 52 百万円減）となりました。これは主に親会社による配当金の支払が 44 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		09/9 第 2 四半期 (累計) 投資額(百万円)
		08/9 第 2 四半期 (累計)	09/9 第 2 四半期 (累計)	
方南工場	シール主体	174	123	—
千曲川工場	輪転機主体	270	162	—
川越工場	オフセット主体	500	377	13
大阪工場	シール・シルク主体	383	359	—
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	304	200	—
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	473	406	9
三光プリンティング	シール主体	142	120	—
	合計	2,246	1,747	22

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD 等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2009 年 9 月第 2 四半期の自社工場生産額は、総生産額 1,747 百万円で売上高に対する生産比率は 40.2%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては上期工場全体で 22 百万円であります。

Ⅲ.今後の展開・平成22年3月期業績予想

◎ 今後の展開

[短期トレンド]

昨年秋以降の世界同時不況による生産調整の影響を受け、当社グループの売上高はAV、OA機器関連を中心に、対前年同期比大幅に減少いたしました。第3四半期以降、中国を中心とするアジア向け受注は回復しつつあります。

また、国内においては、昨年度において大幅な受注減となった携帯電話向け部品は、第3四半期以降もiPhone型携帯の普及に伴う、タッチパネル関連製品の受注増(第2四半期(累計)の売上増は540百万円)が見込まれます。第3四半期以降も、この分野への経営資源を投入し、収益の落ち込みをカバーしてまいります。

[長期トレンド]

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、海外シフトによる国内市場の空洞化が進行しております。

この様な状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

○中国展開

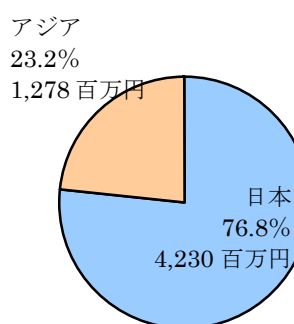
○成型品の拡大

○国内新市場の開拓

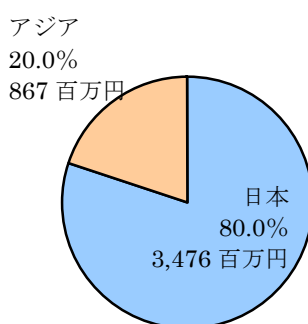
1. 中国展開

○地域別売上

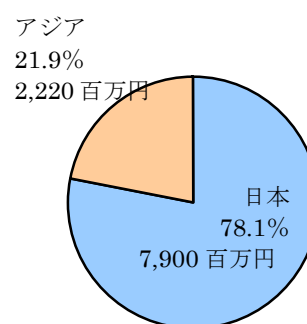
‘08/9 第2四半期(累計)



‘09/9 第2四半期(累計)



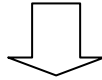
‘10/3 期予想



- ・AV・OA機器関連については、セットメーカーの海外への生産シフトが続くなか、世界的景気後退による生産調整の影響を受け、当第2四半期(累計)においては、アジア向け売上高も前年前期比大幅な減少となりましたが、当第3四半期以降光華産業有限公司(香港)を中心に当社グループの中国地域での売上高も増加傾向で推移するものと予想しております。

2. 成型品の拡大

- ・携帯電話機の亚克力窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図って参ります。
- ・技術面においては、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めて参ります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図って参ります。



その一端として、最近では、家電業界の中にも亚克力に代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、家電メーカーのDVDレコーダーの前面パネルとして製品化を実現いたしました。また、最近では携帯用音楽プレーヤーの前面窓、デジタルカメラ用窓にも採用され始めております。

さらに、携帯電話機向け亚克力窓は、中国燦光電子(深圳)有限公司においても生産を開始し、大手家電メーカーの現地調達の流れに対応しております。

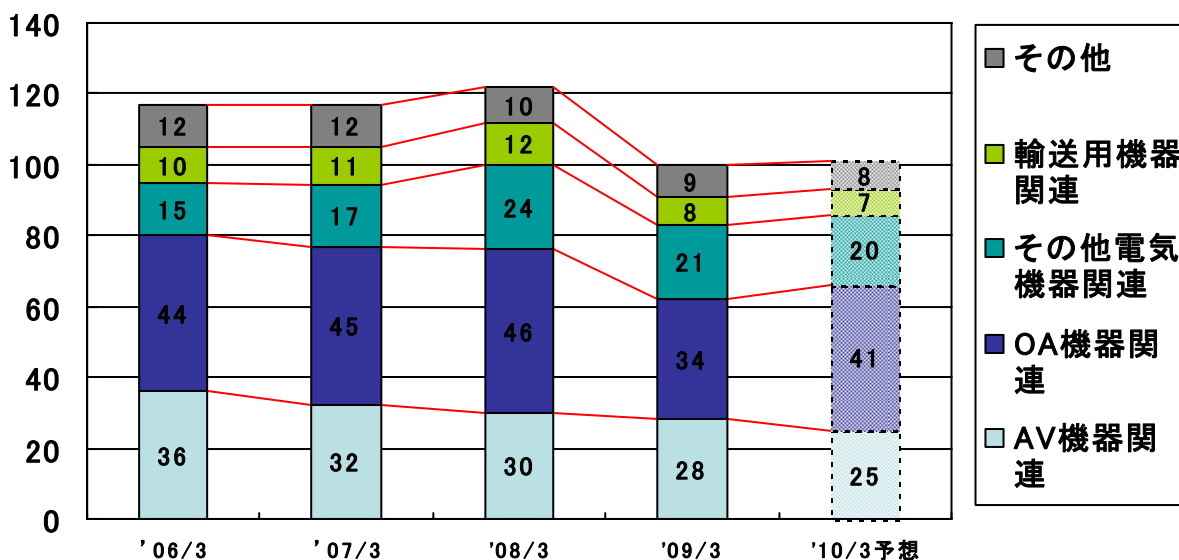
3. 国内新市場の開拓

- ・その他の業種のうち、アミューズメント、玩具景品等の分野は、少子化の影響と中国製品の増加により縮小傾向にあります。当社グループとしては、この分野で受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指して参ります。
- ・また、サニー・ビジョン、ICタグ等の新製品、立体印刷等の新技術の導入により、新市場の開拓を目指して参ります。

◎ 平成 22 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



今後の経済見通しにつきましては、政府の景気刺激等の政策効果及び中国をはじめとする海外需要の回復等により、景気は持ち直し基調にあるものの、引き続き雇用環境の悪化、消費の低迷により依然として予断を許さない状況で推移するものと思われま

す。また、当社グループをめぐる経営環境は、製品ライフサイクルの短期化、多品種少量化、受注単価の低下等厳しい状況で推移するものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループといたしましては、ローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指すとともに、中国展開におきましては、燦光電子(深圳)有限公司を中国における生産拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り受注の拡大を目指してまいります。

また、国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き、市場の縮小が予想されますが、即述の長期経営戦略を基本に国内営業体制を強化し、国内ビジネスの活性化を図ってまいります。

通期の業績につきましては、厳しい状況ではありますが、上期より全般的に受注環境は改善しつつあり、特に海外受注が OA 機器関連を中心に回復してきており、国内においてもタッチパネル関連製品の受注量の拡大が見込まれます。

連結売上高 10,120 百万円、経常利益 59 百万円、当期純利益 20 百万円を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上